

チェリスト富田牧子のおはなしコンサート その2

独奏チェロの始まり
18世紀のナポリのチェリストたち

おはなしコンサートシリーズ

チェロという楽器を通して西洋音楽の歴史を辿る、おはなしコンサート。1600年代後半に北イタリアで誕生したこの楽器が、多くのチェリストの活躍によってヨーロッパ各地に広がり発展した1900年頃までの作品を時代背景と音楽との関わりに触れながら、毎回少しずつご紹介します。今回は歴史的な製法によるガット（羊腸）弦を張ったバロックチェロを使い、チェロの起源から萌芽期のボローニャ、ナポリのチェロ奏者の作品を取り上げます。

と き：2024年7月14日[日]

昼の部14:00 開演 * 夕の部17:00 開演

2回公演・いずれも開場は開演の[15分前]

ところ：BELUGAオルガン練習室(横浜・関内)

料 金：完全予約制(お茶付き) ※未就学児無料席1枠有り

一般4,000円 学生2,000円

最寄り：JR京浜東北線 [関内駅]北口から4分

横浜市営地下鉄 [関内駅]3番出口からすぐ

みなとみらい線 [馬車道駅]から8分



ご予約：ブルーガ e-mail：belugaorgan@icloud.com

Tel：045-662-5536 (不定休10-20時)

※コンサートに車でご来場の際は、近隣の駐車場をご利用ください。

※1時間15分のプログラム・休憩あり

ガット弦（羊腸）を張ったチェロで弾く、

オーガニック（有機的）な音楽

ガット弦は20世紀の初めまで一般的に使用されてきました。第一次大戦以来、広く使われるようになったスチール弦に対し、天然素材であるガット弦は、倍音成分を多く含み、自然界の音のように陰影に奥行きがあり、人が話す言葉のように抑揚と凹凸のある表現が可能です。近代以降、音楽はより大きな音と均一性を求めて発展しましたが、今私たちが必要としているのは、有機的なもの、生命あるものに触れることではないでしょうか。弦の羊腸、弓の馬尾毛、そして木。生命あるものから生まれた楽器と一緒に呼吸して、新たな息吹が与えられる音楽を、間近で体感してみませんか。

富田牧子 Makiko Tomita, Cellist

バロックと現代のスタイルの楽器にガット（羊腸）弦を張り、楽曲に合わせて持ち替えながら、自然体の音楽と室内楽の楽しさを広める活動をしている。東京芸術大学音楽学部在学中にリサイタルを行い演奏活動を始める。同学大学院修士課程修了後ハンガリーのリスト音楽院に留学。ヨーロッパ各地の音楽祭や講習会でソロと室内楽の研鑽を積む。NHK-FM、ORF（オーストリア放送）の公開録音に出演。弦楽四重奏団メンバーとしての活動を経て、フリーの音楽家としてソロリサイタルや様々な楽器奏者との組み合わせによる「充実した内容の音楽を間近で味わうコンサート」を各地で続けている。2017年コスマス・カピッツァ（パーカッション）とのデュオ《羊とヤギ》でCD「O Terra（大地よ）」を発売。身体と演奏の繋がりを探り、耳を澄ませて楽器の音を引き出すレッスンを東京、横浜、京都、長野で行っている。

★富田牧子デュオレッスン

@BELUGA（横浜/関内）

6月22日（土）/7月14日（日）時間は応相談

予約問合せ：BELUGA

tel：045-662-5536

e-mail：belugaorgan@icloud.com

★おはなしコンサート at 憩の森（長野県松本市）

2024年7月21日（日）15時開演

ガット弦のチェロの魅力

～バロックと現代の楽器を使ってその2

於：Gallery&CAFÉ憩の森

（長野県松本市城山11-17）

予約問合せ：MA企画 kikaku_ma@yahoo.co.jp